

平成18年度東北農政局長賞

福島県南会津郡南会津町

「青柳区」

【位置図】

福島県



【地区の概要】

事項	内容
地区の規模	集落
農業地域類型区分	山間農業地域
農家率	70%
	(内訳) 総世帯数 40戸 農家数 28戸
販売農家数	18戸
	(内訳) 専業農家 3戸 Ⅰ兼農家 1戸 Ⅱ兼農家 14戸
主要作物 ()内産出額	トマト (12百万円) 水稲 (11百万円) りんどう (3百万円)
農用地の状況	耕地計 15ha (内訳) 田 13ha 畑 2ha
	耕地率 1.7% 農家一戸当たり農用地面積 0.53ha

【むらづくりの経緯・動機等】

- ・ 山間地である青柳地区では、小面積での零細な稲作と山仕事、冬の出稼ぎ等により生計を立ててきたが、若者の流出、少子高齢化や人口減少の中では地区を維持することも厳しい状況に、地区の将来を懸念する声があがる。
- ・ 昭和60年、地区に所在する戦国時代の久川城跡が福島県史跡に指定されたこと契機に、自然・歴史・文化を活かした取組と古きよきものの復活保存を目指して、世代を超えたむらづくりを始める。

【推進体制】

- ・ 全戸参加の総会「評定始」、随時開催の役員会「談事委員会」により区を運営。
- ・ むらおこし実行委員会や久川城太鼓保存会等の活性化推進組織を立ち上げ、既存の婦人会等の生活関連組織、農業全般を担う農事組合との連携により各取組を展開。

【生産面における寄与状況】

- ・ 農地集積を契機に、更なる稲作の効率化、省力化を目指して平成14年から水稲直播栽培を導入するとともに、環境にやさしい米づくりの実践により、平成16年からJA等を介した給食大手企業との契約栽培が始まる。更に、水稲のエコファーマー（6名）を育成している。
- ・ 基盤整備により水田の汎用化が可能となったことで、冷涼な気候を活かしたトマトやりんどう等の園芸作物の栽培を拡大し、平成15年から実施している大手スーパーとの野菜の産直事業では女性・高齢者が活躍している。
- ・ 平成9年に設立された稲作作業受託組合に地区農家が参画し、農地の遊休化防止を推進(平成17年、農業生産法人「(有)伊南の郷」に改組)。

【生活・環境整備面における寄与状況】

- ・ 埼玉県川越市民との交流を契機に平成9年にむらおこし実行委員会を結成。いも掘り体験、川遊び、雪の学校や地元農産物の販売等の地域資源を活用した多彩なイベントを開催し都市住民との交流を進めている。
- ・ 平成元年に久川城太鼓保存会を結成し、県内外での演奏による交流活動を実施しているほか、久川城子供太鼓（平成12年結成）への演奏指導を通じて世代間交流や文化の継承に取り組んでいる。



特別栽培米（あきたこまち）の作付けを拡大。 トマトの栽培ハウス。高冷地の気候を活かし安全・安心な米づくりに向けて、水稲のエコファーマー たトマトや りんどう等の園芸作物を振興。を育成。



英国大使館での久川城太鼓保存会の演奏。



雪遊びを楽しむ川越市の子供たち。むらづくり実行委員会が中心となって都市住民との交流活動を進める。